

ホウレンソウに対する ネコブセンチュウの防除実証試験

日本石灰窒素工業会

『石灰窒素だよりNo.154』（令和元年12月発行）に掲載した「夏まき秋冬どりニンジンに対する石灰窒素のネコブセンチュウ防除試験」に続き、今号では、当工業会の埼玉県北本圃場で行った「ホウレンソウに対するネコブセンチュウの防除実証試験」を紹介する。

土壌は関東ローム層に属し、もともとは関東地方の台地や丘陵に広く堆積する火山灰層といわれ、通気性・排水性・保水性に優れている。このような土性のため、ネコブセンチュウの被害が発生しやすく、その被害は数年前から野菜類で年々増加しつつあり、昨年度の試験において被害が確認されており、令和元年度も試験区を設置した。

耕種概要

石灰窒素100kg区、石灰窒素50kg区、対照区の3つの試験区を設定した（図1）。

各試験区を仕切版で囲いコンタミを回避した。

土壌は黒ボク土で、令和元年9月18日に整地、施肥を行った。

基肥は各区とも窒素成分で20kg/10 aに調整した。

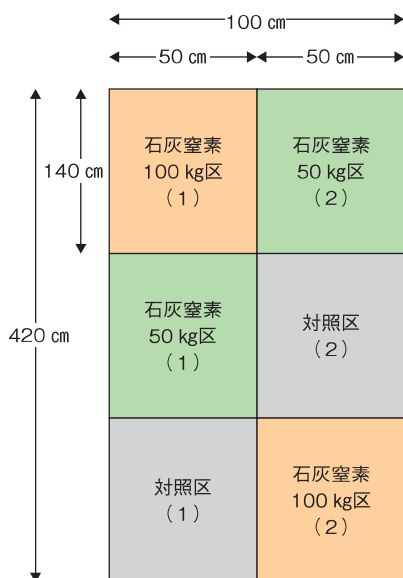


図1 各試験区

石灰窒素100kg区（100kg/10 a相当）以外は化成肥料10-10-10で補正した。

令和元年10月2日に播種、令和元年12月4日に調査（播種から64日）を行った。

品種は次郎丸。播種間3cm×40粒、120粒/区×6区=720粒とした。

ネコブセンチュウに対する防除効果

各試験区のホウレンソウを全部引き抜き、ネコブセンチュウの発病度を目視で0・少・中・多の4分類とし調査した（写真1）。

各試験区の発病度を平均の数値で比較すると、石灰窒素100kg区、石灰窒素50kg区、対照区の順で効果が高かった（図2）。

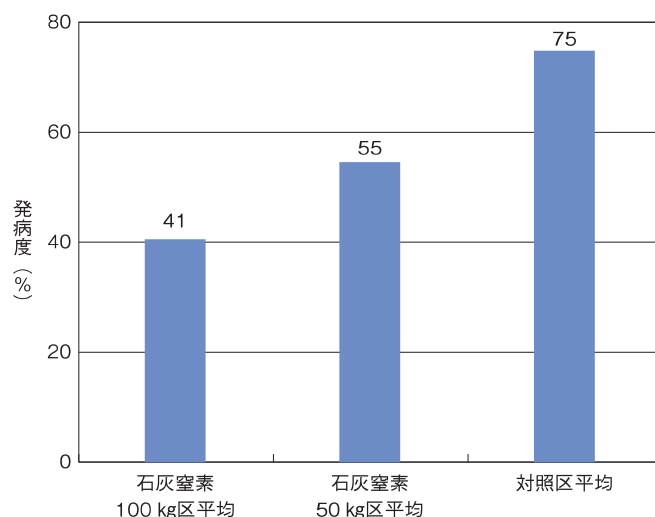


図2 ネコブセンチュウの防除試験における区別発病度



写真1 各試験区の結果